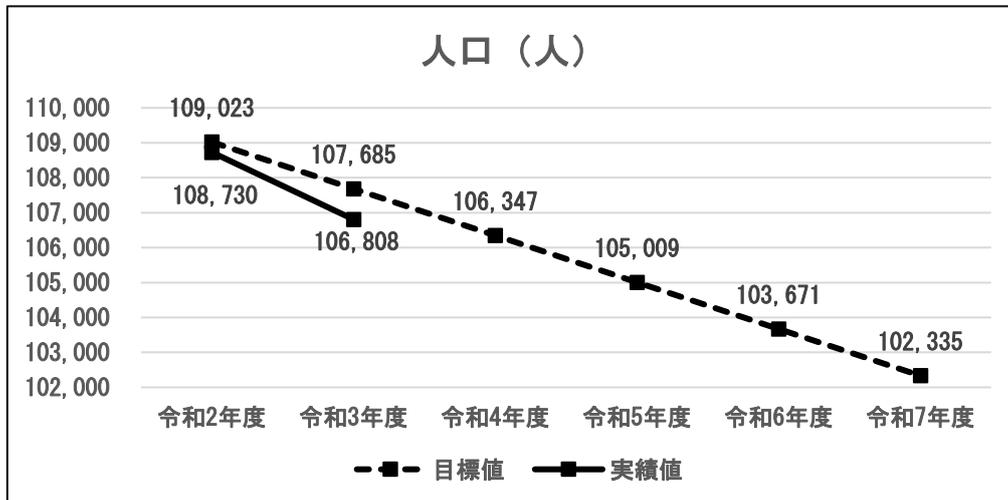


令和3年度における桐生市過疎地域持続的発展計画の状況について

1 基本目標の達成状況

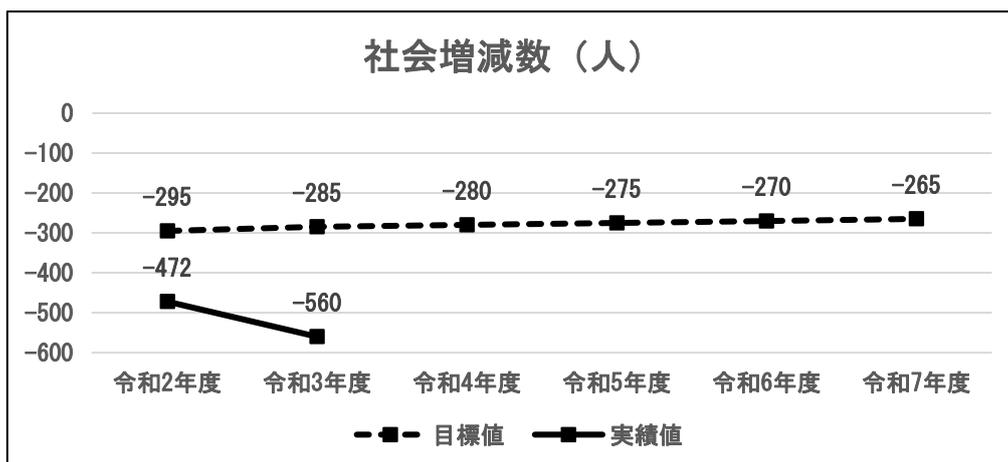
- ① 令和7年度の将来人口を102,335人とする。



令和3年度の人口増減率	
目標値	▲1.23%
実績値	↓ ▲1.77%

※目標値は国勢調査の数値を基に算出し、実績値は住民基本台帳の数値のため、数値の比較ではなく増減率による比較とした。

- ② 令和7年度の社会増減数を▲265人とする。



令和3年度 of 社会増減数	
目標値	▲285人
実績値	↓ ▲560人

※目標値は、総務省の「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」の数値を基に算出し、実績値は総務省の同調査の数値を使用している。

2 各分野における対策の実施状況

① 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成

市内への転入促進と市外への転出抑制に向け、きりゅう暮らし応援事業を実施し、住宅取得費用の補助として269件・211,312千円を交付、空き家の利活用助成・除却助成として34件・23,502千円を交付した。

地域の交流と連携を図るために設置された黒保根町交流促進センターの改修を行うとともに、市外から人を呼び込むため、ワーケーションに対応できるよう館内に情報通信環境（WI-FI）を整備した。

地域おこし協力隊は、黒保根地区において4名の隊員が、シルクル桐生において3名の隊員が地域の活性化に向けた活動を行った。

② 産業の振興

農林業については、農作物の被害防止に向け、有害鳥獣対策に要する経費の補助等を実施した。また、健全な森林の保全や林業経営の向上を図るため、林道の補修工事を行うとともに、林道2路線の改良舗装工事を実施した。この他、林業経営者及び各種団体への支援を行った。

商工業については、空き店舗の解消による地域の活性化に向け、空き店舗活用による新店舗開設支援・創業支援において12件・10,187千円の補助金を交付した。また、創業者創出事業では、「桐生市創業支援等事業計画」に基づき、新たに40人が創業した。商業における販路拡大については、東京インターナショナル・ギフト・ショーの出展を見合わせるとともに、展示会等出展補助金についても年間利用件数は13件に留まるなど、新型コロナウイルスの影響を大きく受けたが、前年度の開催を見送ったビジネスマッチングフェアについては、132団体の出展、約1,900人の来場者があり、盛況なイベントとなった。

観光については、桐生が岡動物園整備事業としてレッサーパンダ舎を整備した結果、多く来場者で賑わう状況が生まれた。また、動物園・遊園地からまちなかへの人の流れを創出するため、歴史まちづくり整備事業では、美和神社及び西宮神社の歩道や広場を整備した。

③ 地域における情報化

マイナンバーカードの普及に向け、6箇所の公民館において延べ812人の市民に対してマイナンバーカード出張支援サポートを実施した。また、ICTに関する情報及び技術の格差を解消すること並びに新型コロナウイルスワクチン接種の予約受付の円滑化を図ることを目的に、市役所1階市民課隣ドコモブースにおいて、925人の市民に対してスマートフォン等の操作支援を行い、デジタルデバインド（情報格差）対策を行った。

④ 交通施設の整備、交通手段の確保

道路交通網の整備については、主要幹線道路である都市計画道路「赤岩線」や「中通り大橋線周辺」などの整備に加え、道路橋梁新設改良事業として4路線（過疎計画掲載事業）の工事を実施、舗装長寿命化事業として10路線（過疎計画掲載事業）の工事を実施し、安全安心な交通環境の確保を行った。

公共交通については、コロナの影響により大幅に利用者数が減少している鉄道機関に対し、鉄道の安全で安定した運行の維持に向け、国の地方創生臨時交付金を活用した緊急支援を行った。新桐生駅では過年度までに駅前広場の整備を実施し、令和3年度にはエレベーターの設置などのバリアフリー化の整備を実施し、鉄道駅の利便性向上を図った。バス交通対策事業として、バス路線全体の見直しを行ったが、旧桐生女子高生の利用減少に加え、コロナの影響もあり、バス利用者の回復には至らなかった。

⑤ 生活環境の整備

水道施設、下水処理施設、し尿処理施設、ごみ処理施設等の市民生活に必要な施設について適正な維持管理を実施し、各施設の安定的な機能維持を図った。

防災については、災害対策用の食料・物資の備蓄や自主防災組織への支援を実施し、地域防災力の向上を図った。また、災害発生未然防止に向け、急傾斜地崩壊対策事業では、13箇所の県事業について負担金を支出し、河川水路維持事業では、40箇所の修繕・補修・改修を実施した。

市営住宅施設改修事業については、市民の安全・安心な暮らしの向上のため、耐震改修工事や屋上防水改修工事、老朽化による新規エレベーターの改修を実施した。

⑥ 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進

子育て支援では、安全な子育て環境の整備に向け、特定教育・保育施設整備補助事業として、3つの施設について老朽化が進む私立保育園及び認定こども園の施設整備を支援した。また、保健福祉会館について、適正な維持管理を実施するとともに、サッシ改修工事や駐車場止め設置工事等を実施し、保健及び子育て支援の拠点としての機能維持を図った。屋内遊戯場施設運営事業では、コロナの影響により臨時休場した期間もあったが、7,333人の入場があり、子育て世帯が交流・相談できる機会の創出に努めた。家庭児童相談室運営事業では、子育て世代包括支援センターとの連携を密にして一体的な支援を実施するとともに、ひとり親支援の充実のため、「母子・父子自立支援員」を配置し、専門的な相談に対応し、子どもとその家庭、及び妊産婦の福祉向上に努めた。

高齢者福祉については、老人クラブ事業として、102クラブに対して活動支援の補助金を交付し、高齢者の交流拠点の維持や活動の促進に寄与した。また、高齢者リフレッシュ事業として無料入浴券や鍼灸マッサージサービス券の交付等を実施し、高齢者の福祉向上に努めた。

障がい者福祉については、障がい者の日常生活における負担を軽減するため、交通費の補助や就学助成金の給付を実施し、障がい者の日常生活における負担軽減に繋げ

た。また、障がい者の自立促進に向け、地域生活支援事業として地域活動支援センター事業や障がい者ふれあいサロン、機能身体障害者機能訓練等を実施した。

⑦ 医療の確保

桐生厚生総合病院への負担金の交付や医師確保対策のための補助金を交付し、桐生厚生総合病院の安定的な運営を図った。

また、黒保根地区においては、地区唯一の水沼診療所が休所していたが、令和4年度から再開された。

⑧ 教育の振興

小学校2校及び中学校4校の校舎について、緊急性を加味し、優先度の高いものの改修を実施し、児童が安全で快適な学校生活を送れる環境整備を図った。

群馬大学や地元企業、市民団体と連携した事業として、未来創生塾への支援を行い、子どもの夢と感性を育むための桐生独自の教育プログラムの継続的实施を図った。

放課後子供教室事業では、コロナの影響により、予定より開催時期は遅れたものの、3教室を新たに設置し、合計11教室（新里北小学校を含む）の設置となり、子どもが地域の中で心豊かに育まれる環境整備に努めた。

黒保根義務教育学校整備事業では、小・中学校を一つにした施設一体型の義務教育学校である黒保根学園の開校に向け、旧黒保根小学校の増改築工事を実施した。このほか、黒保根町国際理解推進事業では、専任の外国人英会話講師による保育園から小・中学校までの一貫した英語活動を実施し、黒保根地域における教育環境の質の向上を図った。黒保根町西町インターナショナル交流事業については、コロナの影響により全ての交流事業が中止となった。

⑨ 集落の整備

黒保根支所農業振興事業として、集落協定を締結し、農地の適切な管理を集落全体で行なっている4つの集落に対して交付金による支援を行った。また、地域おこし協力隊による集落地域を含めた高齢者の見守り等を実施し、集落機能の維持に努めた。

⑩ 地域文化の振興等

市民文化会館は、建物の老朽化により施設内の設備に修繕や交換が必要な箇所が増えているため、安全性、市民サービスの観点から計画的に修繕・改修工事を進め、文化活動の拠点としての機能維持を図った。

重要伝統的建造物群保存地区においては、歴史的環境の保存・継承に向け、伝統的建造物の修理や伝統的建造物以外の建物の修景を行う場合の補助金制度に、新たに内部修理の補助金を導入し、1件の補助を実施した。また、伝統的建造物を活用し、地域の活動拠点となる公開施設を整備するための実施設計を行った。整備実施については令和4・5年度に行う予定である。

日本遺産活用事業では、日本遺産講座を実施したほか、3市連携パネルディスカッションの実施、「日本遺産の日」展の開催、日本遺産めぐりバスツアーの実施等により、日本遺産「かかあ天下-ぐんまの絹物語-」の認知向上や観光誘客に努めた。

⑪ 再生可能エネルギーの利用の推進

環境都市推進補助金により市民が蓄電池設備を設置するための費用について33件、計1,602千円の補助を行い、再生可能エネルギーの利用の推進を図った。

⑫ その他地域の持続的発展に関し必要な事項

カッコソウの保全事業として、カッコソウ協議会の保全活動に加え、年間を通じて自生地 of 自然環境の保全のための調査事業を委託したほか、観察の森園内にカッコソウの移植地を設け、管理及び調査研究、啓発事業等を行うことにより、国内希少野生植物種に指定されたカッコソウの保全を図った。

また、自然保護意識の普及・啓発に向けた森林教育事業では、桐生自然観察の森において、「親子森林環境教育事業」、「森の生きもの調べ事業」、「森で健康になろう」、「里山保全事業」の4事業を合計で13回実施し、117人が参加した。

以上